



●国際ナショナル・カラー・デー

日本色彩学会の「国際ナショナル・カラー・デー (ICD)」が開催されます。

ICD とは AIC (国際色彩学会) が提唱する色彩記念日で、毎年 AIC 加盟各国で様々なイベントが開催されています。

詳細は学会のホームページをご覧ください。

【開催日時】 2023 年 3 月 21 日 (火・祝)

13 時～15 時半

【開催形式】 オンライン開催

【参加費】 日本色彩学会会員：2,000 円、

非会員：2,500 円

【申込フォーム】

<https://forms.gle/XLG2PMd1EmzBNZ89A>

【行事の内容】

◆ICD 開催挨拶 会長 篠田博之

◆ICD 趣旨説明 片山一郎

◆『MIC2022』授賞式

◆ICD 特別企画：講演『平和と色彩』

■講演：『平和を表す色と「緑」の心理的意味』
名取 和幸 (日本色彩研究所)

■講演：『世界をつなぐ壁画と色の持つ力
～ポジティブなメッセージを描く色や配色の
選定～』 ミヤザキ ケンスケ (Total Painter)
(学会メールニュース No.388 から引用)

●尾張の雛菓子 「おこしもん」

おこしもんは、愛知県の旧東海道沿いの地域に伝わるひな祭りのお菓子です。熱湯でこねた米粉を、鯛、扇、桃、筍など縁起物の形をした木型に入れて型おこしをするところから「おこしもん」と呼ばれるようになりました。食紅で色を付け、蒸し器や蒸籠で蒸し、お雛様にお供えます。味はついていません。

起源は、江戸時代頃と言われています。

出来立ては、もっちりしています。冷めても軽く焼くとぷっくりと膨れ、砂糖醤油をつけると美味しいです。

一番楽しいのが、色付けです。色生地

に、白生地を薄く重ねると、蒸しあがった時にほんのりと下の色が透けてきれいです。昔は、雛祭りが近づく、家庭で作るお菓子でしたが、今は木型のある家も少なくなり、和菓子店やスーパーで購入する人がほとんどになりました。

作るのも食べるのも楽しい、郷土の伝統文化。豊かな時間と季節の歳時記を、次の世代に残したいと願っています。(祖父江由美子)



●大辞泉ひろいよみ 7-1

一色：いっしき。一色。一つの色。華道で、一種類の花木を生けること。

一朱：貨幣・重さなどの単位。一朱金。一朱銀。

一色：いっしょく。一つの色。ひと色。全体が同じ一つの傾向でおおわれること。

五つ衣：いつつぎぬ。女房の装束で、表衣と単(ひとえ)との間に五枚の袷(うちぎ)を重ねて着ること。五つ重ね。

一点紅：青葉の中に咲いている一輪の紅い花。ザクロの花。

一白：九星の一。星では彗星。方向では北。

糸毛：糸毛の車の略。牛車の屋形の色糸で飾ったもの。地位により青糸毛・紫糸毛・赤糸毛などがある。毛車。

糸錦：数種の色糸で文様を織り出した織物。

糸緋威：鎧の緋色の組糸による威。紅糸威。

位袍：官位によって定められた色の袍。養老の衣服令によると、一位は深紫、二位・三位は浅紫、四位は深緋、五位は浅緋、六位は深緑、七位は浅緑、八位は深縹、初位は浅縹。平安後期に、四位以上は黒、五位は緋、六位以下は縹色となった。

今紫：赤みの少ない鮮やかな紫色。古代紫に對していう。

*大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)